

令和2年度第6回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和2年11月24日（火） 午後1時30分から3時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール2
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 森 一樹，清水 恒広，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
京北病院 由良院長（医療政策監），正木副院長，藤井施設長，下山看護部長，
大島統括事務長
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川担当部長，濱口経営企画課長

1 開会

2 議事・報告等

(1) 京北病院の現状と課題

資料1に基づき，由良院長から説明

- 京北病院から高度急性期病院である市立病院への転送は年間何例くらいか。また，ヘリによる搬送も必要だと思う。その件数も教えて欲しい。
→ 市立病院への転送は年間10例程度，ヘリによる搬送は年間で30件程度である。
- 病診連携，病病連携が言われる中，京北と市立病院の連携は進んでいると感じている。訪問看護ステーションがあれば，入院等の医療へのアクセスが早くなると思うが，京北地域には何箇所あるのか。
→ 現在，訪問看護ステーションは，京北病院に設置している一箇所である。
- 美山診療所の経営母体が変わることで，京北病院への影響はあるのか。
→ 美山診療所からはこれまでからも紹介を受けている。今後も可能な限り受入れを行うつもりであり，特に負担が生じるとは考えていない。
- 多くの経営指標で減少傾向が見られるが，コロナの影響が大きいのか。
→ コロナの影響もあるが，常勤医が1名欠となっており，マンパワー不足の要因もある。常勤医確保の努力をしていく。
- 今後10年間の分析では，65歳以上の人口はほぼ変わらないとのことだが，地域として人口増に向けた動きはあるのか。
→ 新しい産業の振興や自治振興会等の誘致もあり，年間100～150人程度の移住がある一方，それを上回る規模の流出があるため，人口としては減っている。
→ 65歳以上の年齢層は極端には減らないとのことなので，そうした層に受診していただく働き掛けが大事である。
- 魅力ある取組等，近隣からの集患につながるアイデアや方策はあるか。
→ 以前から地域の協議会に参画しており，市立病院との連携をアピールしている。また，血圧や認知症といったテーマで，出前講座という出張講座を行っている。今後もこうした機会を増やしていきたい。

(2) 月次収支（9月まで）報告

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

(3) 収入状況月次（10月分）報告

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 収入は減っているが、経常費用が変わらないのが赤字原因の一つと考えてよいか。
→ そのとおりで、短期的には患者数が減っても急に体制を縮小するわけにはいかないため、固定費である人件費は減少していない。
- 特養のような高齢者施設は、何かあれば嘱託医が紹介状を書き、急性期の間は協力病院に入院いただく連携ができています。こうした連携も検討してはどうか。
→ 介護保険施設との連携はまだ十分ではない。施設で状態が悪くなった方で、重症度が高い方は受け入れていく。そういう役割を担っていく必要性は感じている。
- 一般企業では中間決算を公表するが、コロナ禍における市立病院の立ち位置を把握するためにも、他病院の状況は掴んでいるのか。
→ 今回のコロナの影響については、様々な病院協会が統計やアンケートを取っているが、おしなべて赤字基調である。ただし、市立病院については院内クラスターの影響もあるため、評価は難しい。

3 閉会